

この件に関するお問い合わせは、ディーディーエスにてお受けいたします
直接、事例先への問い合わせは迷惑となりますので厳にお慎み下さい

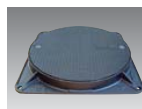
価格表に掲載された 約2万点のアイテムをデータベース化。 DTP作業を自動化し、作業時間を短縮。 掲載情報の信頼性も向上。



第一機材株式会社様

第一機材株式会社様 企業概要

昭和25年創業の建築用機材メーカー。建築物に使用されるルーフトレインやマンホールカバー、側溝格子蓋などを中心に、幅広いアイテムを製造・販売し、その数は数万アイテムにのぼります。一貫したサービス体制を強化し、現在は北海道、盛岡、仙台、新潟、群馬、埼玉、東京、横浜、大阪に営業所を設けて事業を全国展開しています。



新潟県の小千谷工場で製造される
ルーフトレインは全国でもトップクラスのシェアを誇ります。

導入前

価格リストの差し替えは、すべて手作業。
元データから一つひとつ価格情報をコピーし、DTPソフト上で貼付けていたために、ミスをする危険も。

導入後

手作業だった差し替え業務を自動化した結果、
業務効率が大きくアップ。価格表制作時に構築したデータベースは、
信頼のおける基礎データとして、マスタ更新作業でも活用。

> 課題

> 導入に際して

> 効果

> 今後

課題

建築・設備・土木用資器材メーカーの第一機材様は、建設・土木市場へ数万アイテムもの製品を販売しています。「当社の営業ツールとして使用しているのが、約700ページの総合カタログと総合カタログに記載された製品価格が網羅された約300ページの価格表です。弊社ではこの2つの冊子を営業活動のメインツールとして利用しています」と語るのは、長年のカタログ制作をマネジメントしている営業企画チームマネージャーの原田龍裕様です。

これまで第一機材様ではカタログ・価格表の制作をほとんどすべて自社で行っていました。そのため繁忙期になると、作業者の負担が増加し休日出勤になることもしばしばあったといいます。「価格表の制作では、元データのエクセルデータから数値をひとつずつ切りとってDTPソフト上で貼付けていたために、ミスをする可能性は少なからずありました。こうした作業ミスは、余裕を持ったスケジュールならばある程度は防げるでしょう。しかし、当社の製品価格は石油や鉄鋼などの原料価格と密接にリンクしているため、価格の決定は出来る限り発行間際まで延ばしたいと考えています」。作業を優先すべきか、価格の決定を優先すべきか、これまで第一機材様は大きなジレンマを抱えながら価格表を制作していたのです。



営業企画チームマネージャー
原田龍裕様



価格表(左)とカタログ(右)の中間。
価格表の編集は改定商品の差し替えが基本ですが、ページ数が膨大なため作業量、校正者の見落としは防ぎ切れません。

導入に際して

「そんな状況をDDSさんに相談したところ、データベースを駆使した価格の自動差し替えシステムを構築すれば、ほとんど人手をかけることなく正確に、しかも短時間に価格表が作成できるとおっしゃってくださったんです」

こうして第一機材様とDDSは、価格表制作の自動化に向けたプロジェクトをスタートさせました。自動化に先駆けて私たちが着手したのが、価格表のデータベース化。これまで価格表では、「製品コード」と「価格表」が隣同士に記載されていましたが、データそのものはリンクされていませんでした。この2つのデータをリンクさせたデータベースを構築することで、作業が自動化できると考えたのです。

導入時のやりとりについて原田さんは次のように語ります。

「当社がDDSさんに提供したのは既存のエクセルデータとDTPソフトで作成したドキュメントだけ。今回のプロジェクトのために新規でデータを作成する必要はありませんでした。弊社の制作スタッフもシステムに詳しいものばかりではなくはじめは少し不安でしたが、既存データを使用できたおかげで大きな混乱もなくプロジェクトを進めることができました」

効果

システムは2010年秋に完成、2011年1月にはこのシステムを利用したはじめての価格表が完成しました。

「今回のシステムのおかげでDTP作業が自動化されたために、作業の正確性が大幅に改善されました。従来もマスタデータと価格表のデータをマッチングさせる作業は行っておりましたが、DTPが手作業のために、期待通りの整合性を得ることができませんでした。自動化によってマッチングによる検証精度が高まったのは、大きなプラスとなりました。その上DDSさんからは更新箇所が明記された作業結果一覧シートも支給していただいたので、何ページのどの価格がいくらからいくらに変わったのか、その情報を社内でも共有する際に大変助かりました」

これまででは2カ月程度費やしていた制作期間も、次回以降はかなり短縮できるのではないかと原田さんは期待します。

「発行する直前の原料価格を価格表に反映できれば、経営戦略的にも大きなプラスになりますね」

品名	標準価格	備考
01 M1011	4,700	形式別の値を参照した
01 M1021	5,500	標準から変更された
01 M1031	5,500	形式別の値を参照した
01 M1041	7,000	標準から変更された
01 M1051	18,200	標準から変更された
01 M1061	15,500	標準から変更された
01 M1071	4,500	標準から変更された

「価格表」の余白には「カタログ」の参照ページが掲載されているため、カタログのページが修正されると、価格表の参照ページも修正する必要があります。データベース化すれば、修正漏れなどのリスクを回避することも可能です。

価格表作成の自動化によってもたらされる主なメリット

正確性の向上	エクセルデータの貼り替えミスなど、人的作業によるミスがゼロになった。
制作期間の短縮	約2カ月かけて制作していた価格表も、次回以降は大幅な短縮が見込まれる。その結果、価格表には最新の原料価格を反映した価格が掲載可能に。
「信頼できる基礎データ」の作成	価格表作成時に構築したデータベースは、第一機材様の最新の見解が反映されたもの。マスタデータを更新する際の、「信頼できる基礎データ」として活用できる。
デザイン面の改善	罫線やセルの大きさ、書体の属性などについて、アナログ作業では修正するたびにこれまでのフォーマットにあわせる必要があったが、自動化によってその手間がなくなった。そのためグラ段階から当初の仕上りイメージに近いものが作成できるようになった。
更新箇所の情報共有	更新箇所を記載した「作業結果シート」を社内でも共有することにより、校正作業の効率化はもちろんのこと、営業サイドと価格表制作サイドの意思疎通がスムーズとなった。
カタログの制作に注力	制作スタッフは価格表のDTP作業がなくなった結果、カタログの基本デザインなど人間でなければ難しいクリエイティブワークに時間を割けるようになった。

今後

第一機材様の次の目標、それは「カタログ」と「価格表」の相互参照インデックスをデータベース化することです。

「当社の価格表の各ページの上部には、該当する製品がカタログのどのページに掲載されているかが記載されています。つまり価格表とカタログは本来セットでデータベース化されるべきなのです。もしこれが可能となり一元的に管理できれば、よりミスのない作業につながるのではないかと考えています」

こうしたご要望に対し、DDSでは既に技術検証を進めており、今後は第一機材様の制作環境にマッチした付加価値の高いソリューションを提案する予定です。